

相談部会 令和6年度 部会状況把握表				
活動理念	誰もが自分らしく暮らせる街をつくる。			
活動目標	事例や課題検討を通じて相談員のアセスメント力や相談支援スキルを向上させる。サービス提供事業所と顔の見える関係をつくる。			
① 事例や課題検討を通じて相談員のアセスメント力や相談支援スキルを向上させる。		取り組み計画(PLAN)		
実行実績(DO)		評価(CHECK)	改善(ACTION)	
第1四半期	4月			
	5月	・令和6年度計画について	・事例や課題検討にあげるテーマについて、これまでに支援に苦慮したケースをあげながら、今年度の統一テーマ「金銭管理・金銭トラブルに関わる支援のあり方」を決定することができた。	・相談支援専門員等による事例検討会を2か月に1回実施し、ファシリテーター力及び、相談員のアセスメント力や相談支援スキルを向上させていく。
	6月	①社会福祉協議会による就労支援準備事業の周知・案内 ②事例検討会 事例1. いたちごっここの繰り返し…何度も同じこと言われて僕も傷つきます。 事例2. いたちごっここの繰り返し…色々言われたくない、自由になりたい。	・両者ともに金銭管理の支援を要する交際中の2人への関わり方にについて考えることができた。 ・障がい特性のある人が理解しやすい金銭管理の方法について考えることができた。	・今後の相談部会に向けて、障がい特性のある人の金銭管理支援の課題や学びたいことを抽出していく。
	7月	研修会 講 師:三重県金融広報委員会 金融広報アドバイザー 稲垣 裕子 様 タイトル:「障がい者支援のための家計管理の基礎知識」	・分かりやすいお金の管理のコツや、金銭トラブル遭遇した時の対処法について学ぶことができた。 ・生活上の必要な物と欲しい物を取捨選択することや、将来に備えて貯金をすることの必要性などが伝わりにくい利用者への金銭管理支援が難しいが、効果的な対処法がなかなか見つからないといった意見も見られた。	・今回学んだ分かりやすい金銭管理の方法(レシートをお薬カレンダーに入れて、支出を可視化する等)を利用者に伝えて、実践していく。
第2四半期	8月	事例検討会 タイトル:「地域社会における障がい支援の難しさ」	・生活保護受給者の福祉サービス外の金銭管理について、どこまで支援を行うべきか、各々の支援ケースを基に話し合いを行った。 ・保護受給者を担当するケースワーカーの支援力の差について、指摘があった。	・相談支援員として支援できることを整理しつつ、本人の困り事には寄り添い、より良い支援のあり方を検討していく。
	9月	出前講座 タイトル:「防ごう消費者トラブル」	・具体例を基に消費者トラブルに遭わないための対策、トラブルに巻き込まれて困っている人への効果的な声掛け等を教わった。	・困った時、身近に頼れる人が1人いるかどうかで消費者トラブルの被害増大を防ぐことができる。頼れる1人として思い出してもらえるように丁寧な関わりを続け、関係構築を目指す。
	上半期総評	達成率	100%	取り組みやすい金銭管理の方法、消費者トラブルへの対策について学ぶことができた。また、利用者に対して必要な物と欲しい物の取捨選択や貯蓄の必要性などを理解してもらうことへの支援の難しさについては、各自の支援経験を基に、より良い対応について話し合う機会を持つことができた。
第3四半期	10月	・事例検討会 「わたし、摂食障害はずっと持っていたいんです。」	・本人なりに依存治療施設を探しているものの、摂食障害があることで家族との関係性が保たれているので治癒したくないという相反する想いを同時に持つ摂食障害の方の支援の在り方について話し合うことができた。	・医療的なケアが必要な部分と、医療以外から支援やアプローチをかけられる部分をよく見極めながら、支援を行っていく。
	11月	研修会 伊賀市社会福祉協議会 権利擁護課 「日常生活自立支援事業について」	・日常生活自立支援事業の利用対象者や、申し込み方法、具体的な支援方法など実例を踏まえ、研修をしていただけた。	・公的サービスでサポートできることは限られているため、今後も民間の事業についても広く学び、支援スキルを向上させていく。
	12月	・事例検討会 「抑えられない衝動を繰り返す娘の思いと食い違う親の思い」	・服薬治療を望まない親と二次障害の傾向が見られつつある子の支援の在り方について話し合った。	・環境の変化、決定的な出来事がないと解決は難しいかもしれないが、親や本人の困り感に寄り添いながら、現時点で支援者ができることを模索していく。

	1月	伊賀市地域生活支援拠点事業について	・地域生活支援拠点について、国の方針、当市の現状や考え方について、共有することができた。また、緊急対応が必要となる可能性のある利用者を抽出することになった。	・対象者抽出を機に、親亡きあとを見据えたサービス利用の見直しを図っていく。
第4四半期	2月	・事例検討会 「自分の思いとおりに生活したいです。そうしたいんです。」	・高齢の母や祖母の支援によって、進行性の難病ながらも在宅生活が維持できており、今後も在宅生活の継続を望む方の支援について話し合うことができた。	・本人の想いに寄り添いながら、関係者との連携をより密にして。 ・喫緊の課題(いざという時の支援者・後見人)について一つでも解消しておく。
	3月	・振り返り	・今年度の振り返りから得られたことや課題などを話し合うことができた。 また、来年度の計画についても確認を進めることができた。	・相談支援スキルの向上に向けて、来年度も引き続き事例検討や研修を行っていく。
	下半期総評	達成率 100%	・事例検討会を通じ、同様の事例の共有や課題の抽出を行うことができた。 ・講師を招いて研修会を開くことで、今年度のテーマ「お金のトラブル・管理に関すること」に対する支援力を高めることにもつながった。 ・相談支援専門員、事業所、市などの関係機関の連携体制の強化、構築の重要性について改めて確認できた。	

くらし部会 【ヘルパー人材育成WG】
令和6年度 部会WG状況把握表

活動理念	各関係機関の連携により、居宅介護等サービスの質・量の向上の取組みを行い、圏域における地域福祉サービスの安定と充実を目的とする。			
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ○コンプライアンスを含めたサービス水準の向上 ○事業所間の相互援助体制の構築 			
	取り組み計画 (PLAN)			
	<p>【活動方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新システム「さきがけシステム」の土台をもとにした課題の抽出、整理 ・特定相談支援事業所との連携による支援体制づくり ・居宅介護スキルアップ、コンプライアンス研修会の企画、実施 <p>※「さきがけシステム」の土台をもとにした課題の抽出や整理についてを方針とし、令和5年度第2回伊賀圏域障がい福祉連絡協議会で承認されたが、県から契約を伴わない複数事業所による「さきがけシステム」は事業形態としては認められないと見解を示されたことにより、方向性の見直しについて協議。</p> <p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WG長・副WG長の選任 ・新WGメンバーの変更に伴い、これまでのWGの取り組みについて情報共有。 ・新WGメンバーにより、年間活動計画を確認し、方向性や取り組み内容の修正について協議。 ・ヘルパー事業所事例検討会(仮)に向けた事前勉強会の実施。(講師:特定相談支援事業所すきっぷ) <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルパー人材育成WGのあり方、今後について協議 ・今年度の振り返り ・来年度について 			
	実行実績 (DO)	評価 (CHECK)	改善 (ACTION)	
第1四半期	4月			
	5月			
	6月	<p>6/18 第1回WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WG長、副WG長の選任 ・活動計画の方向性や取り組み内容の修正について協議 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象事業所(名張市15、伊賀市12)の内、メンバー事業所は前年度から2事業所減少し、4事業所(名張市2、伊賀市2)となった。前年度に続きメンバー事業所となったのは1事業所のみで、必然的にWG長を選出する形となった。副WG長についてはメンバーが少ない中で経験やバランスを考慮した中で選出した。 ・活動計画の方向性や取り組み内容について修正が必要になった経緯を共有した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当初の計画より、1ヶ月遅れての開催となった。 ・活動計画の方向性や取り組み内容の修正について協議するが、活発な意見が出難かったため、次回に持ち越すこととなった。
第2四半期	7月	<p>7/9 第2回WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動計画の方向性や取り組み内容の修正について協議 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動計画の方向性や取り組み内容の修正について協議する中で、各事業所が抱える課題や苦労等について様々な意見が出た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回WGから持ち越した活動計画の方向性や取り組み内容の修正について協議したが、明確なものを見い出せずまとまらなかつたため、再度次回に持ち越すこととなった。
	8月	<p>8/20 第3回WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動計画の方向性や取り組み内容の修正について協議 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回WGに引き続き、活動計画の方向性や取り組み内容の修正について協議した。 ・ヘルパー事業所事例検討会(仮)の実施に向けた一定の意見が出た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルパー事業所が抱える共通の課題として慢性的な人材不足がある中で、負担を軽減し効率的な業務を運営するために、事例検討会(仮)を行う意見が出た。事例検討会(仮)の実施に向けた事前準備として、次回WGでは事前勉強会を行うことを決めた。
	9月	<p>9/30 第4回WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルパー事業所事例検討会(仮)事前勉強会 講師:相談支援事業所すきっぷ 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に寄り添ったより良いサービスを提供するため、相談支援事業者とサービス事業者の関わりから計画相談支援の仕組みやプロセス等のサービス利用までの流れを始め、各種書類作成についての共通認識を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス等利用計画書、個別支援計画書の目的や作成のポイント等の共通認識を図ったことで、サービスの質の向上や安定供給が、事業所間の相互援助体制の構築にも繋がると認識を図った。

		実行実績 (DO)	評価 (CHECK)	改善 (ACTION)
上半期 総評		達成率	これまでコロナや震災等から非常時等の支援を想定し「さきがけシステム」構築について協議してきたが、事業形態としては認められない見解を示されたことにより、前年より減少した新WGメンバーで、活動計画の方向性や取り組み内容の修正について繰り返し協議した。事業所が抱える課題等を共有する中で、利用者のニーズに合った支援、緊急対応や関係機関の調整等、なかなかうまくいかないもどかしさや葛藤には人材不足があり、「さきがけシステム」への搖らぎも見える中、ヘルパー人材育成WGの発展性についても検討を繰り返した。	
		100%		
第3四半期	10月	10/23 第5回WG ・事業について検討	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回WGでの事例検討会(仮)に向けた事前勉強会を経て、実務に活用できる実践的な研修会の実施について意見交換を行った。 ・名張市自立支援協議会が実施したアンケート結果を参考資料として時間の偏りの現状や負担に感じる業務等の課題、人材活用の為に他業種がされることなどの意見等を共有し検討を重ねた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回WGでの事例検討会(仮)に向けた事前勉強会を経て、実務に活用できる実践的な研修会の意義や必要性を理解するが、根本的な課題である慢性的な人材不足により業務多忙のため研修会を設定しても参加者を見込めず研修会の成立が難しいと判断し見送ることになった。
	11月	11/27 第6回WG ・ヘルパー人材育成ワーキングの来年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのWGで、活動計画の方向性や取り組み内容の修正について、協議や勉強会をするが、慢性的な人材不足の共通課題がある中で、ヘルパー人材育成WGの意義は何か、存続の是非も含め改めて問う意見が多数出た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全6回のWGを振り返り、来年度に向けたWGの在り方、方向性について、くらし部会長に対応を一任することになった。
	12月			
第4四半期	1月	1/21 第7回WG ・今年度の振り返り ・来年度について	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成の必要性は認識しているが、人材不足の深刻さが大きな課題となり、ヘルパー事業所のみでの議論が難しい。 ・社会情勢においては、ヘルパーのニーズは高い。 ・多職種多分野と地域課題(地域移行の推進等)の協議の中でヘルパー事業所の意見を反映させる必要があると確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の形のWGは終了し、今年度の協議内容を地域全体の課題として各市自立支援協議会において共有を図る。 ・伊賀市名張市両市が各々企画する人材育成に関する研修会を互いに共有し、事業所に案内する。研修企画を協働で行う。
	2月			
	3月			
下半期 総評		達成率	サービスの質の向上や安定供給が、事業所間の相互援助体制の構築にも繋がると共通認識を図るが、研修会への参加者を見込めず成立が困難であると判断し実施を見送った。	
		100%	各職種や各分野においても、ヘルパーの大切さやヘルパー事業所が抱える人材不足、厳しい現実を受け止め真剣に考えなければならない。課題は共有し連携した対応を検討していくことや、他分野事業所や相談体制への連携や強化にも発展させ繋げていくことが重要と確認した。	
年度 総評		達成率	<p>介護や障害等制度は異なっても、どの世代にも地域での生活を支える支援の要としてヘルパーは重要な資源であり、欠かせない業種である。しかし、現状として、人材不足は深刻であり、運営に悩む事業所もある。支援の質の向上をめざし、協議や研修内容の検討を重ねてきたが、ヘルパー事業所のみでの人材育成の議論は難しく現在の形のワーキングは終了し、今後は多機関多分野と共に地域移行や地域包括ケアの推進等の視点でヘルパー事業所からの意見を述べ、施策等に反映させる必要があると確認した。</p> <p>また、今後も地域におけるヘルパー支援のニーズは高まることは予測される。ヘルパーの人材確保や育成の課題については地域の重要な課題として、各市自立支援協議会や圏域内の様々な会議体など他部署と横断的に議論を続け、対策を地域全体で模索し続ける必要がある。</p> <p>人材育成のための研修企画や情報共有、相談などの機会は、圏域内において両市が協働して取り組むことを確認した。</p>	
		100%		

くらし部会 【精神障がい地域包括ケアシステムWG】 令和6年度 部会WG状況把握表																																
活動理念	精神障がい者が地域の一員として安心して自分らしい暮らしができる医療・障害福祉、介護、社会参加、住まい、地域の助け合い、教育が包括的に確保された地域包括ケアシステムの構築を目指す。																															
活動目標	<p>多職種で構成されるWGメンバーにより、日常生活圏域における課題を整理して、本会議に地域ケアシステム構築に向けての提言を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> モデルケースの地域移行支援を行い、実際に起こる課題を整理する。 賃貸業者へのアンケート調査結果を基に、精神障がい者の地域生活での課題を整理する。 地域包括ケアシステムについて、既存のシステムを研究・整理し、既存の体系の中でシステムの構築を行う。 																															
取り組み計画 (PLAN)																																
<p>【第1期四半期計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本年度のWG長・副WG長の選任。 本年度の活動計画について確認する。 モデルケースの地域移行を進める。課題を抽出し、必要な対応策を考える。既存システムの研究・整理。 <p>【第2期四半期計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート結果を基に課題を検討する。啓発方法について検討する。 整理した既存システムについて、活用できるところ・活用が難しいところをさらに検討する。 <p>【第3期四半期計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート結果を基に課題を検討する。啓発方法について検討する。 整理した既存システムについて、活用できるところ・活用が難しいところをさらに検討する。 <p>【第4期四半期計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> モデルケースの地域移行を行った結果を検討する。 既存のシステムの中で、精神障がい地域包括ケアシステムの構築を行う。 来年度のWGの実施計画について検討する。 																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>実行実績 (DO)</th><th>評価 (CHECK)</th><th>改善 (ACTION)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>5月</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>6月</td><td>6/18 第1回WG ・WG長・副WG長の選任 ・今年度活動計画の確認</td><td> <ul style="list-style-type: none"> WG長・副WG長の選任ができた。 両市のモデルケースの経過を追いながら、多くの人に共通する課題を抽出することを確認した。 </td><td> <ul style="list-style-type: none"> 計画的にWGを開催できるよう、年間の会議開催日を決定した。 </td></tr> <tr> <td>7月</td><td>7/23 第2回WG ・モデルケースの状況及び経過について ・賃貸住宅仲介業者への質問等について</td><td> <ul style="list-style-type: none"> モデルケースの経過の情報共有を行い、共通する課題を抽出し、必要な対応を考えた。 不動産会社の調査研究の文献から不動産会社に聞く内容や聞いてみたい内容について協議した。 </td><td> <ul style="list-style-type: none"> 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築(イメージ)に向けて次回WG以後において検証を行う。 </td></tr> <tr> <td>8月</td><td>8/20 第3回WG ・モデルケースの状況及び経過について ・モデルケースの事例検討</td><td> <ul style="list-style-type: none"> モデルケースの経過の情報共有を行い、共通する課題を抽出し、必要な対応を考えた。 モデルケースの事例検討を各グループに分かれて行った。 </td><td> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの立場から地域での課題を出して次回WGにおいて対応策を考える。 </td></tr> <tr> <td>9月</td><td>9/24 WGコア会議 ・モデルケースの事例検討</td><td> <ul style="list-style-type: none"> モデルケースから抽出した個人や地域の課題を分類してケアシステム図に整理した。 </td><td> <ul style="list-style-type: none"> 次回WGにて伊賀圏域のケアシステム図から課題を出してもらう。 </td></tr> <tr> <td>上半期 総評</td><td>達成率 100%</td><td></td><td> <ul style="list-style-type: none"> モデルケースを追いながら意見交換を行い各々の課題を抽出することが出来た。 地域包括ケアシステム構築に向けて伊賀圏域のケアシステム図(案)を作成することが出来た。 </td></tr> </tbody> </table>				実行実績 (DO)	評価 (CHECK)	改善 (ACTION)	4月			5月			6月	6/18 第1回WG ・WG長・副WG長の選任 ・今年度活動計画の確認	<ul style="list-style-type: none"> WG長・副WG長の選任ができた。 両市のモデルケースの経過を追いながら、多くの人に共通する課題を抽出することを確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的にWGを開催できるよう、年間の会議開催日を決定した。 	7月	7/23 第2回WG ・モデルケースの状況及び経過について ・賃貸住宅仲介業者への質問等について	<ul style="list-style-type: none"> モデルケースの経過の情報共有を行い、共通する課題を抽出し、必要な対応を考えた。 不動産会社の調査研究の文献から不動産会社に聞く内容や聞いてみたい内容について協議した。 	<ul style="list-style-type: none"> 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築(イメージ)に向けて次回WG以後において検証を行う。 	8月	8/20 第3回WG ・モデルケースの状況及び経過について ・モデルケースの事例検討	<ul style="list-style-type: none"> モデルケースの経過の情報共有を行い、共通する課題を抽出し、必要な対応を考えた。 モデルケースの事例検討を各グループに分かれて行った。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの立場から地域での課題を出して次回WGにおいて対応策を考える。 	9月	9/24 WGコア会議 ・モデルケースの事例検討	<ul style="list-style-type: none"> モデルケースから抽出した個人や地域の課題を分類してケアシステム図に整理した。 	<ul style="list-style-type: none"> 次回WGにて伊賀圏域のケアシステム図から課題を出してもらう。 	上半期 総評	達成率 100%		<ul style="list-style-type: none"> モデルケースを追いながら意見交換を行い各々の課題を抽出することが出来た。 地域包括ケアシステム構築に向けて伊賀圏域のケアシステム図(案)を作成することが出来た。
実行実績 (DO)	評価 (CHECK)	改善 (ACTION)																														
4月																																
5月																																
6月	6/18 第1回WG ・WG長・副WG長の選任 ・今年度活動計画の確認	<ul style="list-style-type: none"> WG長・副WG長の選任ができた。 両市のモデルケースの経過を追いながら、多くの人に共通する課題を抽出することを確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的にWGを開催できるよう、年間の会議開催日を決定した。 																													
7月	7/23 第2回WG ・モデルケースの状況及び経過について ・賃貸住宅仲介業者への質問等について	<ul style="list-style-type: none"> モデルケースの経過の情報共有を行い、共通する課題を抽出し、必要な対応を考えた。 不動産会社の調査研究の文献から不動産会社に聞く内容や聞いてみたい内容について協議した。 	<ul style="list-style-type: none"> 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築(イメージ)に向けて次回WG以後において検証を行う。 																													
8月	8/20 第3回WG ・モデルケースの状況及び経過について ・モデルケースの事例検討	<ul style="list-style-type: none"> モデルケースの経過の情報共有を行い、共通する課題を抽出し、必要な対応を考えた。 モデルケースの事例検討を各グループに分かれて行った。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの立場から地域での課題を出して次回WGにおいて対応策を考える。 																													
9月	9/24 WGコア会議 ・モデルケースの事例検討	<ul style="list-style-type: none"> モデルケースから抽出した個人や地域の課題を分類してケアシステム図に整理した。 	<ul style="list-style-type: none"> 次回WGにて伊賀圏域のケアシステム図から課題を出してもらう。 																													
上半期 総評	達成率 100%		<ul style="list-style-type: none"> モデルケースを追いながら意見交換を行い各々の課題を抽出することが出来た。 地域包括ケアシステム構築に向けて伊賀圏域のケアシステム図(案)を作成することが出来た。 																													

		実行実績 (DO)	評価 (CHECK)	改善 (ACTION)
第3四半期	10月	10/15 第4回WG ・モデルケースの事例検討	・モデルケースから地域の課題として考えていくイメージで、今後検討が必要なことを整理した。	・個別の賃貸業者、名張市のまちの保健室、伊賀市社協の地域福祉コーディネーターとの関係性を強化する目的で研修会を開催する。
	11月	11/26 WGコア会議 ・地域の課題の整理	・次回WGに向けてまちの保健室、地域福祉コーディネーターへ聞いてみたいことを協議した。	・次回WGにてまちの保健室、地域福祉コーディネーターの業務概要、賃貸業者が事例で困ったことを情報共有し、関係機関同士で協力できることを検討する。
	12月	12/10 第5回WG ・名張市まちの保健室の活動 ・伊賀市地域福祉コーディネーターの活動 ・賃貸住宅仲介業者の取り組み	・まちの保健室、地域福祉コーディネーター、賃貸住宅仲介業者を交えて意見交換や質疑応答を行った。	・関係機関が連携しながら地域で安心して生活できる環境を整えるために関係機関が協力できるように検討する。
第4四半期	1月	1/21 第6回WG ・R6事業計画進捗状況について ・R7事業計画(案)について	・今年度の振り返りと次年度に向けた活動内容の確認を行った。	・伊賀圏域版の地域包括ケアシステムの構築に向けた協議を進めていく。
	2月			
	3月			
下半期 総評	達成率		モデルケースの事例検討の結果から、地域移行への課題の検証ができた。	
年度 総評	達成率		伊賀圏域版の地域包括システム構築に向けた足掛かりができた。	

就労部会 【 雇用啓発 WG 】 令和6年度 部会WG状況把握表				
活動理念	就労ステージ(雇用の場・就労福祉サービス、地域活動参加等)の多様な環境を整え、積極的な社会参画ができる地域を構築していく			
活動目標	○福祉から就労に向けた計画的推進と障がい者の就労定着や雇用促進に向けた啓発 ○雇用の場の開拓と啓発			
	取り組み計画 (PLAN)			
	①企業訪問(就労定着、雇用啓発の視点で課題の再整理を行う)			
		実行実績 (DO)	評価 (CHECK)	改善 (ACTION)
第1四半期	4月			
	5月	5/9 WG会議 今年度の事業計画について確認 今年度は企業訪問は行わず、これまで訪問した結果から伊賀圏域の課題整理を行う。		
	6月			
第2四半期	7月	7/11 WG会議 課題整理の方法について検討	来年度の企業訪問の進め方について、検討を行った。次回WGに過去数年の訪問結果を準備し、より具体的に検討を進める。	
	8月	8/8 WG会議 課題整理の方法について検討	令和2～5年度の訪問結果を確認し、令和5年度の集計方法に基づいて、各年度の結果を集計することになった。	
	9月	9/12 WG会議 課題整理の方法について検討	集計をする/しないを含めて、再検討することになった。	
上半期 総評		達成率 90%	障がい者雇用に関する課題整理について検討する	課題整理の方法について検討を行った。
第3四半期	10月	10/10 WG会議 課題整理の方法について検討	令和2～4年度の訪問結果を令和5年度の集計方法に基づいて集計することとした。 また、ハローワーク伊賀、名張市ではこれまで訪問した企業の中で、面接会で障がい者雇用に結びついている人が何人いるかを調べることとした。	
	11月	11/14 WG会議 課題整理に関する困りごと等の共有	集計にあたり、困ったことを共有、どのように対応するか検討した。	訪問結果を整理するにあたり、課題が特に書かれていない企業もあったため、整理方法については改善の余地がある。
	12月			
第4四半期	1月	1/9 WG会議 集約した課題を共有し、内容を検討 次年度の取組について協議	令和2～5年度の訪問結果を整理・集計することができた。	整理結果を今後の取組の参考とする。
	2月			
	3月			
下半期 総評		達成率 100%	障がい者雇用に関する課題整理を行った	令和2～5年度の訪問結果を整理・集計することができた。
年度 総評		達成率 95%	障がい者雇用に関する課題整理を行った	令和2～5年度の訪問結果を整理・集計することができた。

就労部会 【 雇用啓発 WG 】 令和6年度 部会WG状況把握表				
活動理念	就労ステージ(雇用の場・就労福祉サービス、地域活動参加等)の多様な環境を整え、積極的な社会参画ができる地域を構築していく			
活動目標	○福祉から就労に向けた計画的推進と障がい者の就労定着や雇用促進に向けた啓発 ○雇用の場の開拓と啓発			
	取り組み計画 (PLAN)			
	②企業向け研修会の開催			
実行実績 (DO)		評価 (CHECK)	改善 (ACTION)	
第1四半期	4月			
	5月	5/9 WG会議 今年度の事業計画について確認 企業の課題解消を目的として、研修会を企画する。		
	6月	6/10 WG会議 第1回研修会について検討	開催要項、案内文書、チラシ等について検討。 下記内容で決定。 日 に ち: 9月30日(月)午後 場 所: ゆめぱりすセンター 講 師: ハローワーク伊賀・精神障害者雇用トータルサポーター	
第2四半期	7月	7/11 WG会議 第1回研修会について検討 第2回研修会について検討	第1回研修会後のアンケートについて検討 第2回研修会の開催時期について検討 開催時期は12月初旬～中旬となった。	
	8月	8/8 WG会議 第1回研修会について申込状況の報告 第2回研修会について検討	第1回研修会の案内はハローワーク伊賀の就職面接会の案内に同封いただき、222社に送付。8/8時点で8名(7社)より申込があった。 第2回研修会について決定 日 に ち: 12月12日(木) 場 所: ゆめぱりすセンター 講 師: 三重障害者職業センター	第1回研修会の案内は、ハローワーク伊賀の就職面接会の案内に同封いただいたが、WGの予算がない中で、今後の郵便料等の負担をどうするか検討が必要。
	9月	9/12 WG会議 第1回研修会について役割分担と最終確認 9/30 第1回研修会 開催	9/30 第1回企業向け研修会「意外と知られていない！障がいのある方への配慮・支援の仕方」開催 申込人数 35名(21社) 参加人数 30名(17社)	
上半期総評		達成率 100%	企業向け研修会の実施	9/30に第1回企業向け研修会「意外と知られていない！障がいのある方への配慮・支援の仕方」を実施し、30名(17社)に参加いただいた。アンケート結果より「非常によかったです」「よかったです」が93.1%を占めていた。
第3四半期	10月	10/10 WG会議 第1回研修会について報告と振り返り 第2回研修会の申込状況の報告	第1回研修会の参加人数、アンケート集計結果について報告し、振り返りを行った。 9/30に150社に案内を送付。10/10時点で申込1名(1社)より申込があった。	WGの予算がない中で、今後の郵便料等の負担をどうするか検討が必要。 令和6年度に作成した一部企業のメーリングリストを活用する等、予算の必要のない周知方法を検討していく。
	11月	11/14 WG会議 第1回研修会について役割分担と最終確認	11/13時点で申込人数18名(14社)予定していた30名より申込が少ないため、企業への声掛けを行った。	企業へ声掛けをせずとも研修会の申込が入るよう、案内方法やリーフレットの内容等について改善が必要。
	12月	12/12 第2回研修会 開催	12/12 第2回企業向け研修会「意外と知られていない！障がい者雇用の困りごと解決講座」開催 申込人数 18名(14社) 参加人数 15名(12社)	

		実行実績 (DO)	評価 (CHECK)	改善 (ACTION)
第4四半期	1月	1/9 WG会議 第2回研修会について報告と振り返り	第2回研修会の参加人数、アンケート集計結果について報告し、振り返りを行った。	第2回研修会では、参加者同士で話し合う時間があり、意見交換が行われてよかつた。 一方で、スムーズに話し合いがスタートできないグループがあつたため、次回以降、意見交換の時間がある場合はWGメンバーが入る等、対応を検討する。
	2月			
	3月			
下半期 総評	達成率 100%	企業向け研修会の実施	12/12に第2回企業向け研修会「意外と知られていない！障がい者雇用の困りごと解決講座」を実施し、15名(12社)に参加いただいた。アンケート結果より「非常によかつた」「よかつた」が85.7%を占めていた。	
年度 総評	達成率 100%	企業向け研修会の実施	2回の研修会を実施し、企業の課題解消の一助となった。	

就労部会 【 雇用啓発 WG 】 令和6年度 部会WG状況把握表				
活動理念	就労ステージ(雇用の場・就労福祉サービス、地域活動参加等)の多様な環境を整え、積極的な社会参画ができる地域を構築していく			
活動目標	○福祉から就労に向けた計画的推進と障がい者の就労定着や雇用促進に向けた啓発 ○雇用の場の開拓と啓発			
	取り組み計画 (PLAN) ③他機関主催イベントへの参画(障がい者就職面接会等)			
実行実績 (DO)		評価 (CHECK)	改善 (ACTION)	
第1四半期	4月 5月 6月			
第2四半期	7月 8月 9月	9/12 WG会議 障がい者就職面接会について確認	日 に ち: 10月4日(金) 時 間: 14:00~16:00 場 所: 三重県伊賀庁舎 7階大会議室 参 加 企 業: 23社	
上半期 総評	達成率 100%	障がい者就職面接会に向けた調整・確認	下半期の面接会に向けた調整・確認を行った。	
第3四半期	10月 11月 12月	10/4 障がい者就職面接会(ハローワーク伊賀主催)開催 10/10 WG会議 障がい者就職面接会について報告	参 加 者 57名 (内訳 伊賀25名、名張31名、甲賀1名) (内訳 身体14名、知的11名、精神32名) 参 加 企 業 23社	昨年と同様、自由参加の集合面接会の形式で開催。参加者は57名と昨年(39名)よりも大幅に増加。1月末時点での採用決定者は14名で昨年(13名)よりも増加という結果になった。次年度も部会活動の一つとして主催者とともに継続して取り組んでいく。
第4四半期	1月 2月 3月	2/13 WG会議 障害者就職面接会IN名張について確認 3/12 障害者就職面接会IN名張(名張市主催)	日 に ち: 3月12日(水) 時 間: 13:45~16:00 場 所: 名張産業振興センターASPIA 参 加 企 業: 12社 参 加 者 ○○名 (内訳 伊賀○○名、名張○○名) (内訳 身体○○名、知的○○名、精神○○名) 参 加 企 業 ○○社	
下半期 総評	達成率 100%	障がい者就職面接会、障害者就職面接会IN名張に協力	障がい者就職面接会、障害者就職面接会IN名張において、会場設営、受付、ブース案内等を行った。	
年度 総評	達成率 100%	障がい者就職面接会、障害者就職面接会IN名張に協力	伊賀公共職業安定所、名張市が主催する事業に、WGとして協力することができた。	

就労部会 【 事業所連絡会WG 】 令和6年度 部会WG状況把握表				
活動理念	・福祉と労働が連携し、障がいのある人の多様な働き方を実現する。 ・障がいのある人が活躍できる就労活動の実現に努め、ひとりひとりが豊かな暮らしを送ることを支援する。			
活動目標	・事業所間コミュニケーションを図り、目に見えるネットワークをつくる。 ・仕事の共同受注についての仕組みをつくる。			
	取り組み計画 (PLAN)			
	①座談会			
実行実績 (DO)		評価 (CHECK)	改善 (ACTION)	
第1四半期	4月	4/19WG (毎月第3金曜日開催) ・8月開催に決定 ・グループに分かれたディスカッション、交流、顔の見える関係づくりを目指す ・事業所の職員が支援等で抱える困りごとを共有し、支援力の向上を目指す	・討論時間について検討(昨年度アンケートにより短かったと意見あり)。 ・実施方法をリモート方式から対面方式に変更するか検討。 ・参加者募集の方法について検討。 ・イベント開催までのスケジュール確認。	・リモート方式は事業所職員が参加しやすい。対面方式だと、各事業所から会場への移動が課題となるが、話がしやすい。 ・参加者募集方法については、メールにて一斉通知し、締切1週間前にWGメンバーで役割分担し、電話案内を行う。これによる狙いは「新規参加者を募ること」「事業所連絡会WGによる実施イベントであることの周知」。
	5月	5/17WG ・リモート形式で決定	・トークテーマについて検討。	・昨年に引き続き、トークテーマについては内容を限定しすぎず、参加者が話をしやすいようにする。
	6月	6/16WG ・開催日時(8/27午後3時半～5時) ・トークテーマを4つ決定。	・イベント当日の進行について。	・昨年度はトークテーマを各グループごとに話し合い決定していたが、決定までに時間を要したため、申し込み時点で参加者の希望のトークテーマを確認し、希望ごとにグループ分けを行うこととした。
第2四半期	7月	7/19WG ・参加者ヘイベント周知 ・当日の進行について最終確認	・WGメンバーで役割分担し電話にてリマインドを行うことで、今年度初参加の方が見えた。	
	8月	8/8WG 8/27座談会開催 ・参加者(事務局含む)39名		
	9月	9/20WG ・振り返りを行う	・昨年、討論時間について時間が足りないという課題があったが、発表時間をなくし、後日討論内容を共有することで解決した。	・業務の兼ね合い等により、どうしても参加できない事業所がある。
上半期総評	達成率 100%		昨年度から好評であったことから継続して事業を実施した。座談会の企画から実施に至るまで、計画的に進めることができた。イベント参加への声掛けを密に行うことにより、新規の参加者がいた。	
第3四半期	10月	10/18WG		
	11月	11/15WG		
	12月	12/20WG		
第4四半期	1月	1/17WG		
	2月	2/21WG		
	3月			
下半期総評	達成率 100%		参加者からは軒並み好評であり、時間が足りないといった意見も多かった。	
年度総評	達成率 100%		次年度以降は、障害のある方が一般就労へステップアップするため、より多くの事業所が参加できるような取り組みをし、経験年数を問わず職員の困りごとを解決できるようにする。	

就労部会 【 事業所連絡会WG 】 令和6年度 部会WG状況把握表				
活動理念	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉と労働が連携し、障がいのある人の多様な働き方を実現する。 ・障がいのある人が活躍できる就労活動の実現に努め、ひとりひとりが豊かな暮らしを送ることを支援する。 			
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所間コミュニケーションを図り、目に見えるネットワークをつくる。 ・仕事の共同受注についての仕組みをつくる。 			
		取り組み計画 (PLAN)		
②マルシェ (伊賀市開催、名張市開催)				
		実行実績 (DO)	評価 (CHECK)	改善 (ACTION)
第1四半期	4月	4/19WG ・毎月第3金曜日にWG開催。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の工賃向上、利用者の販売機会の創出のため、今年度も実施。 ・伊賀市開催は障害者週間啓発のイベントとして12月開催予定。 ・名張市開催または地域共生社会デザイン会議イベントまたは人権イベントとの抱き合わせを予定。時期未定。 	
	5月	5/17WG		
	6月	6/16WG		
第2四半期	7月	7/19WG		
	8月	8/8WG ・伊賀市マルシェ12/5(木)、12/6(金)開催日時決定 ・名張市マルシェ1/26(日)開催決定		
	9月	9/20WG ・伊賀市マルシェについて開催日までのスケジュールを確認		
上半期 総評	達成率		開催日決定(伊賀市、名張市)	
30%				
第3四半期	10月	10/18WG ・伊賀市マルシェ開催の参加事業所(伊賀市8、名張市3)決定。初日にセレモニー実施 10/21 伊賀市実行委員会 レイアウト、注意事項等確認	<ul style="list-style-type: none"> ・伊賀・名張全事業所へ確認した結果、昨年度参加事業所数より増(10→12)。 	
	11月	11/15WG		
	12月	12/5、12/6伊賀市マルシェ開催(伊賀市役所) ・購入者数803人 12/20WG ・名張市マルシェ開催までのスケジュール確認。 ・名張市マルシェ開催の参加事業所(伊賀市7、名張市3)決定	<ul style="list-style-type: none"> ・過去からの継続実施により、イベントが定着化し、参加事業所が増え、各事業所の売り上げも向上した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・販売する物品が無く、マルシェに参加できない事業所がある。今後はそのような場合でも事業所紹介ブースとして出店できるようにする等、検討していく。 ・本事業については継続していきたいが、開催方法等あらためて検討する。
第4四半期	1月	1/17WG ・伊賀市マルシェ実績報告 1/26名張市マルシェ開催(総合福祉センターふれあい) ・購入者数約400人		
	2月	2/21WG		
	3月			

下半期 総評	達成率 100%		計画通り事業を実施することができた。
年度 総評	達成率 100%		令和3年度より、実施しており参加事業所も増え毎年恒例イベントとして定着している。 次年度以降も継続する。

就労部会 【 事業所連絡会WG 】 令和6年度 部会WG状況把握表				
活動理念	・福祉と労働が連携し、障がいのある人の多様な働き方を実現する。 ・障がいのある人が活躍できる就労活動の実現に努め、ひとりひとりが豊かな暮らしを送ることを支援する。			
活動目標	・事業所間コミュニケーションを図り、目に見えるネットワークをつくる。 ・仕事の共同受注についての仕組みをつくる。			
	取り組み計画 (PLAN) ③研修(事例検討会1回、研修会1回)			
実行実績 (DO)		評価 (CHECK)	改善 (ACTION)	
第1四半期	4月	4/19WG ・毎月第3金曜日にWG開催 ・事例検討会と研修会を1回ずつ開催すると決定		
	5月	5/17WG ・9月事例検討会、2月研修会を開催することを決定	・研修会当日までのスケジュールを確認。 ・座談会と開催時期が近いため、イベントの案内に注意が必要。	
	6月	6/16WG ・次回WGまでに事例検討会テーマを決めると確認		
第2四半期	7月	7/19WG ・事例検討会テーマを決定	・各WGメンバーでテーマを持ち寄り、決定した。	
	8月	8/8WG ・事例検討会資料について協議		
	9月	9/20WG ・当日の進行スケジュール確認。参加者のグループ分け 9/26事例検討会開催 ・参加者37名(事務局含む) ※R5より6名増	・グループ分けについては経験年数の近い者同士で集まるように工夫した。 ・各グループの発表時間を設げず、その分話し合いに時間を使う。後日共有。	
上半期 総評	達成率 100%		事例検討会を計画的に実施した。	
第3四半期	10月	10/18WG ・事例検討会振り返りを行う ・2月開催予定の研修についてテーマ検討 ・就労選択支援研修会についての制度概要について維雅幸育会と共に12/16(講義)、12/17(事例検討会)に実施決定	・アンケートにより、概ね好評と意見をいたいた。	・基本的に経験年数に応じてグループ分けを行ったが、一部経験年数の違う方が編成された。結果、違う角度からの意見が出た。一方、経験年数に応じてテーマの選考をすることも検討が必要
	11月	11/15WG ・研修会当日の流れについて確認		
	12月	12/16就労選択支援研修会開催 ・講師の都合により12/16のみ実施した ・参加者70名 12/20WG	・WGとして広く関係機関に案内することができた。 ・伊賀圏域内の就労支援事業所含め、広く関係機関の方が参加された。	・今後も伊賀圏域内の課題を解決するための研修会を実施するため、WGで実施したイベントごとに行っているアンケートを参考にしながら検討する。
第4四半期	1月			
	2月			
	3月			
下半期 総評	達成率 100%		計画通り事業を実施できた。	
年度 総評	達成率 100%		次年度も、情勢に合った研修会を開催する。(候補としては令和7年10月より実施される就労選択支援制度について)	